

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和8年5月1日現在

江戸川区立東葛西中学校

全国学力・学習状況調査 A・B層の割合		
年度	国語	数学
令和9年度の目標	60.0%	65.0%
令和8年度の目標	60.0%	65.0%
令和7年度の結果	55.0%	62.5%
令和6年度の結果	49.8%	59.8%

令和7年度江戸川区学力調査結果 A・B層の割合			
学年	国語	数学	英語
第2学年	47.9%	67.4%	57.9%
第1学年	52.1%	55.0%	57.9%



目標達成に向けた取組

	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い、教え合い、共有する時間を必ず作る。 単元指導計画を立てる。 指導と評価の一体化を意識した授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストを毎時間実施する。(数学) 小テストを定期的実施する(国語・英語) 長期休業日後に確認テストを行う。(数学・国語・英語) 目標を毎時間提示し、振り返りを単元ごとに行う。(数学・国語・英語) 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに学習ワークを用いて復習させる。(数学・国語) 毎授業後に家庭学習として復習課題に取り組ませる。(英語) 課題の内容を小テストで振り返らせ、定着を図る。(英語)
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動を行う際、得意な生徒が苦手な生徒に対して教えられるように工夫する。個別に支援する。(数学) グループワークを行う際、様々な意見を取り入れて共有できるようにする。環境を整える(国語) 評価基準を明確にし、生徒が主体的に取り組むことができるようにする(数学・国語・英語) ペアワークを取り入れ、教えあい活動が自然に行えるように工夫する。(英語) 	<ul style="list-style-type: none"> ドリルパークで苦手分野の復習を実施する。小テストや、実力テストでの成績が下位の生徒を対象に、放課後質問教室を実施する。(数学) 定期テストの後に必ず振り返りを行い、正答率の低い問題を抽出し、解き直しを行う。(国語) 帯活動で基本事項の理解と定着を図る。(英語) 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題チェックの際に、やってきたことを褒める。(数学・英語) アドバイスや良かった点を記録する。(国語) ドリルパークで苦手分野の復習させ、成果を褒めることで自己肯定感を高める(数学・国語) ノート指導やワークへの取り組みへのフォローアップを行い、学習習慣を定着させる。(英語)
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査で「授業は好きだ、授業の内容はよく分かる」の回答項目 肯定的な回答90%以上(数学) 肯定的な回答85%以上(国語) 肯定的な回答80%以上(英語) 	<ul style="list-style-type: none"> 実力テストの達成率50%以上の生徒80以上(数学・国語) 全国学力調査のA・B層65%以上(数学) 全国学力調査のA・B層60%以上(国語) 全国学力調査のA・B層60%以上(英語) 	<ul style="list-style-type: none"> ワークの提出率95%以上(数学) ワークの提出率90%以上(国語) ワークの提出率90%以上(英語)